■立松和博　　新聞記者。次々とスクープ，売春汚職事件を暴露して不当逮捕され，自殺に追い込まれた。

たてまつかずひろ

水平社結成・1922＝　東京地方裁判所予審判事立松懐清の次男に生まれる。母は房子。兄と姉1人の末っ子。
祖父西平は立松家に婿入りして，司法界に進み，裁判畑を歴任，引退後は，名古屋弁護士会会長までつとめ，母の父薗部久五郎は警視庁の名物的存在という司法界の名門であったが，

護憲三派圧勝1924＝ 2歳：この年，旧刑事訴訟法が施行され，以後，戦前の司法相は全て検察畑出身。

円本時代始・1926＝ 4歳：朴烈と金子文子の"怪写事件"で，両者への対応の仕方が問われて，父が司法官の身分を失い，
弁護士を開業，日本橋と小石川に事務所を置き，自宅は麻布本村町の高台の大邸宅で，来客が絶えなかったこと，もともと，父の性分を継いで自由闊達であったが，声楽家の母が不在がちのなか，姉兄とは年齢が離れて合わず，家に預かっていた女性ミツから"お坊ちゃま"扱いされて育ったことなどが，奔放な人格形成に関わったと思われる。エリート校の小学校に入れられるも，学業は振るわず，

満州事変・・1931＝ 9歳：

帝人疑獄事件1934＝12歳：父が，この年の帝人事件の弁護団の一員を務める。本郷中学校に入学して，ますます不良性を発揮，

ついに，父によって薗部久五郎に預けられるも治らず，

日中戦争始・1937＝15歳：

健保+総動員 1938＝16歳：結核を患っていた父が死去。遺族は，広大過ぎる麻布本村町の家引き払って祐天寺の二階家に住む。

大政翼賛会・1940**＝18歳：**明治大学専門部法科を受験して不合格になるも，父の友人のコネで，滑り込むが，大学にはほとんど行かず，ボクシング・ジムに通うなどして過す。

日米開戦・・1941＝19歳：

・・・・・・1942＝20歳：海軍飛行科第十二期予備学生を志願して合格，土浦の練習航空隊に配属。戦死するのがいやで，脱落を画策し，兵科第二期予備学生に移り，

創価学会検挙1943＝21歳：通信科に回され，久里浜の海軍通信学校に入り，少尉として，重巡那智に乗り込み，

年金+総武装 1944＝22歳：マニラ湾で爆沈するも，命拾いして，三重県松阪市にあった第101航空艦隊司令部付となる。

敗戦・・・・1945＝23歳：***敗戦を迎え，亡父と昵懇だった正力松太郎の口利きで{読売新聞}に入社，社会部に勤務。争議と正力の公職追放，GHQの介入による変遷のなか，亡父につながる検察人脈で，多くの検事から愛され，**
敗戦によって出獄した朴烈が立松家に来訪し，父の霊前にひれ伏し，以後，韓国に帰るまで毎年焼香に来たという。社員内のオーナードライバー第1号になる。

新憲法公布・1946＝24歳：極東裁判の取材を手伝っただけで，**_早くも，司法記者クラブのメンバーになると，**

極東裁判決・1948＝26歳：***戦後初の大型疑獄といわれる昭和電工事件について，大蔵省主計局長福田赳夫が召喚された記事を皮切りに，次々スクープ，副総理の西尾末広が逮捕されるに及んで，芦田首相の政権放棄に至らしめ，一躍花形記者になった。このスクープについては，検察官岸本義広との関係について疑惑がもたれたが，部長の竹内四郎に寵愛されて，公私ともに奔放になり，**

三大事件・・1949**＝27歳：**靖子と結婚。結婚後も月給袋は持ち帰らず，母からも援助を受けて，酒や女性関係は奔放で，自腹で多くの関係を築いて行く。

独立回復・・1951＝29歳：

ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝30歳：警視庁捜査第二課を担当中，**_電通汚職事件もスクープ，**

自衛隊発足・1954＝32歳：**_この年の造船疑獄でも次々スクープする一方，東京地検特捜部にとっては，犬養法相の指揮権発動で頓挫，汚辱の年となり，岸本義広らにとって巻き返しが急務となる。**

55年体制始・1955＝33歳：**_国会に売春等処罰法案が提出され，業界団体が傍聴席で圧力，汚職が始まるが，肺結核と胃潰瘍のため，入院，手術を3回受け，**

なべ底不況・1957＝35歳：***ようやく退院許可がとれると，山中湖の別荘で過ごした後，出社。2年間の長期欠勤にも拘わらず，あっという間に，収賄した政治家の名前が並べられた通称"神近メモ"を入手，大スクープをものにする。政権は，岸本義広を東京高検検事長にして，口封じに動き出す。情報源を明かすことを拒否して，政治家への名誉棄損の罪で逮捕される。記者クラブは不当逮捕で一致，保釈されて{読売新聞}に戻ると，凱旋将軍のように迎えられるが，肺結核の悪化で，微熱が続いていたため，入院。全マスコミが味方する"時の人"となって，臨床尋問を受けてもなお意気軒高でいたが，{読売新聞}が社をあげて権力に立ち向かうのを止め，自分一人の問題として切り離すことを知った時から，急に落ち込んで行く。また，多くの看護婦と関係を持って，麻薬を常用するようになったことによる朦朧状態もひどくなる。{読売新聞}がついに全面的非を認める記事を載せるとともに，懲戒休職処分。やがて，重い睡眠薬中毒になって，神経科に入院，**

ｲﾝｽﾀﾝﾄﾗｰﾒﾝ・1958**＝36歳：**{世界}に載った談話筆記が自らを語った唯一のもの。

安保闘争・・1960＝38歳：

ｲﾀｲｲﾀｲ病始・1961＝39歳：**_退院して，城南支局長のポストを与えられるも生気は無く，**

全国総合計画1962＝40歳：**_没した。自殺と思われる。**

本田靖春「不当逮捕」，